

芽吹きの季節と博物館

はがっかだより No.91
2004.4



特価1000円(定価1200円)

『鳳来の自然・観察ガイドブック』の使い方

町内各戸への配布が完了し、新聞でも紹介されて、たいへんおおせいの方々から反響がありました。この本の使い方として、いろいろお話をうかがいましたので紹介します。

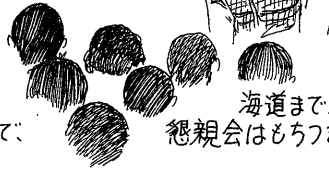
- 学校で使いたいので先生が1冊づつ持つ
- 町外に住む親戚に配る(鳳来町の自然自慢)
- 町外に出た友人、兄弟に土産(故郷の自然をなつかしむ)
- 中身を自分で歩いて確かめる(郷土の自然の再確認)
- 枕元や手元に置いてパラパラとめくってながめる(楽しむ)
- この本に紹介されていない、もっとすばらしいものがあるのじゃないか、片っぴらから読む(まちがいもみつけてしまう)

と、このように積極的に利用していただいています。また、今までになかったことですが、おみやげや、配布用に5冊、10冊単位でまとめて入手される人が多いこともおとろきです。多くの人達がこの本を手し、鳳来の自然の魅力の一端を知っていただければ、こんなうれしいことはありません。



注目のツチガエル (平成16年4月29日)

昨年の7月14日、玳老筆の安藤オーさんが見つけたアルビ(白子)のツチガエルは職員(森下)の家で無事越冬し、ロビーでのデビューをはたしました。寒い日はホーと浮んで、死体のような様子。うす黄色の体はよく目立ち、水槽にみんなが集まります。



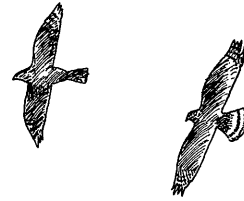
懇親会

瑠璃山No.9・友の会報の発行 (平成16年4月11日)

友の会の総会にあわせて発行しました。B5版128頁の本です。河村先生の「恐竜のはなし」を収録。会員のページも17人の執筆で充実しています。会員だけのすべて手作りの会報です。



恋の季節 (平成16年4月9日)



この日、博物館上空でサシバの求愛ディスプレイが見られました。「ヒョッ、フィー」という特徴のある鳴き声を最初に聞いたのは3月26日でした。

この季節、鳳来寺山ではホオジロ、オオルリ、ゴジュケイ、キセキレイ、ヤマサメ、ウグイス、フクロウ、アオバズク、シジュウカラ、イカル、ヤマカウなど、たくさんの野鳥たちが繁殖のシーズンを迎えて、鳴き声にあふれています。

学術委員総会・友の会総会 (平成16年4月11日)

平成16年度の総会をおこないました。学術委員総会では、昨年度の事業報告と16年度の活動推進について話しあわれました。友の会総会では、新役員として大嶽さん、山田さんに替って長谷川博さん、深見知子さんが選ばれました。また、総会前には緒方清人先生の「日本列島 生きものドキドキの旅」と題して講演がありました。西表島から北海道まで、話題が多くて/時間では話しきれないほどでした。懇親会はおちつきをしました。赤米とヨモギと白の3色の味をたのしみました。

ツツジ・シマツナゲの花を楽しむ (平成16年4月30日、はれ、57人参加)

新緑がまぶしい県民の森でおこないました。モチツツジ、ヤマツツジ、ホソバシマツナゲなどの花をたのしみながら、植物やきのこの観察もしました。隣の宇連ダム方面では山火事の煙が立ちのぼっていました。火には気をつけましょう。



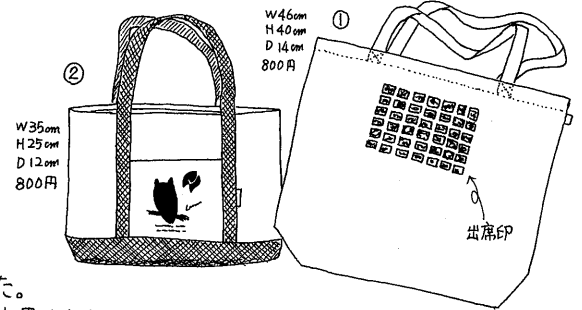
玄関・ロビーの花

改修工事で博物館の玄関とロビーもきれいになりました。そしてリニューアルオープン以来いっしょに野生の草花がかざられています。

友の会の丸山潤次郎さんは、自家の山に生えるミツマタやミツバツツジを大きな枝ごとタイナミックに提供してくれます。学術委員の山田由乃先生はセツクソウ、イカリソウなどの鉢植えや、ヤマフキ、キアシ、ヤマデマリ、ヤマウツギ、ウツギ、ハナイカタなど、毎回それぞれの名の由来や特徴について解説パネルを添えて展示してくれます。

大人気! 新ミュージアムグッズ誕生 (平成16年4月1日)

開館40周年を記念して、オリジナルバック2種を作りました。①帆布製のエコバックは、学習会でおなじみの消しゴムスタンプ68種をあしらった、たっぷり大きめサイズ。採集会やお買物にも便利です。②ちょっと小さめのトートバックはコリハズクシルエットが人気です。お弁当や水筒、双眼鏡、フィールド図鑑などを入れるのにピッタリサイズです。超限定品のため、残りわずかです。欲しい方はお早めに!



W35cm H25cm D12cm 800円

W46cm H40cm D14cm 800円
①
出席印

スミレの花園 (平成16年4月5日)

展示館2階から出られる裏庭は、この時期スミレ畑になります。日本の代表的なスミレのタチツボスミレです。環境適応力があり、年々株が増えています。一面が紫のスミレの花園になる日も近いかもしれません。

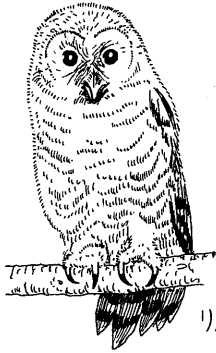


鳳来寺山 自然科学博物館

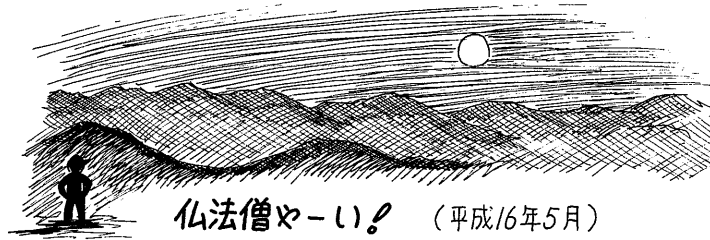
五月の生き物たちの話題

はがきだより 16.92
2004.5

フクロウの赤ちゃんあずかる (平成16年5月14日)



この日、はるはる西尾市からフクロウの幼鳥がやってきました。巣立ちまじかのところをゆうかりされ、さらに置き去りにされたところを、保護されたようです。しばらく民家で飼養されていましたが、野生に帰すためにこの博物館がめんどうをみることになりました。全身にまだ幼羽が残り、白くて丸く、かわいかられて育ったために人になれてしまっていました。当館で少々きびしく川ビビりをし、たくましくした後に放鳥するつもりです。



仏法僧やーい! (平成16年5月)

今年の鳳来寺山はコリハスグが静かです。毎晩のように耳をそばだてていますが、鳴き声が聞こえてきません。行者越えやカラ沢谷の山中でも深夜まで調査をしましたが、鳴いてくれません。4月末に発生した宇連タムの山火事で、消火のためにヘリコプターが連日飛びかいましたが、びっくりしてしまっただけでしょうか。昨年は6月5日に行者越えで鳴いています。あきらめずに調査をつづけます。一方、仏坂(4月26日)や亀淵(5月2日)では、今年もやってきて「仏法僧ッ、フッ、ホー、ソー」と、よく鳴いています。



モリアオガエルの産卵 (平成16年5月3日 雨)

雨はモリアオガエルの産卵に欠かせないものです。今年の鳳来寺山での初産卵は5月の連休中でした。雨天は博物館にとって、来館者数に影響するので、あまりうれしくありませんが、モリアオガエルは待ちわびていたようです。7日に中腹の産卵池に確認に行くと、6つの卵塊が枝先に産みつけられていました。

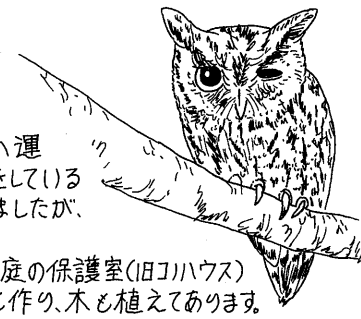
立松和平氏 来山 (平成16年5月13日)

東京新聞発行「岳人」の原稿執筆のための取材でした。鳳来寺山が愛知を代表する霊山であるとして、石段から本堂まで館長と案内しました。前日は山頂までいったそうです。また、博物館もしっかり見してもらいました。どんな記事になるのか、楽しみです。



鳥かみ 隻眼のオオコリハスグ (平成16年4月16日)

4月1日に豊川市内で保護され、博物館へ運ばれてきました。左目がとじたままで、ケガをしているようでした。やがて目をひらけるようになりましたが、どうやら左目は使えないようです。この日、室内から昨年完成したばかりの、中庭の保護室(旧コリハウス)に移動させました。止まり木や巣箱、雨よけを作り、木も植えてあります。近ごろはすっかり元気で、ゲージの中を飛びまわっています。

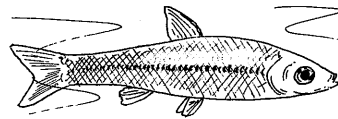


タゴガエルの飼育展示 (平成16年5月1日・2日)

学術委員の小山委員がタゴガエルの成体とオタマジャクシ(幼体)、小椋友の会長が成体をもってきてくれました。「フォンッ、フォン」と鳴いて、まるで犬のようです。いつも、モリアオガエルはかりが注目されるので、今回はタゴガエルにスポットがあたりました。



音為川でモツゴ (平成16年5月10日)



ロビーの水槽で飼育するための魚を採集していた小椋(友の会長)さんのタモ(網)にモツゴが入りました。池や沼、それに続く細流、下流域にすむ魚で、音為川ではじめて見ました。

春の生きものやモリアオガエルの卵を観察しよう (平成16年5月30日 くもりのち雨 60人参加)

参道沿いに昆虫、魚、陸貝、野鳥などの観察をしながら石段を登り、モリアオガエルの産卵池まで行きました。途中、ムサビの住む樹洞がありました。顔を出してくれませんでした。池にたどりつくと180cm大のアオタイショウがとっさえらわれていました。お腹にはモリアオガエルの卵が2~3匹入っているようでした。またとない機会なので、皆でしっかり観察してから逃しました。



鳳来町長篠周辺の中央構造線 (平成16年5月16日 雨 44名参加)

前日までの晴天が一変し、朝から雨です。こんな日は学習会の実施の判断に迷ってしまいます。この地学学習会も人気で、50人以上の申し込みがされていました。朝、電話をとると、ほとんどの人が雨でも出席することのこと。実施することにしました。長篠の向林から医王寺にかけての断層の露頭や地形を観察して歩きました。降りしきる雨の中、受講者も講師の先生も、ぬれながらの熱心な学習会でした。



はくぶつかんへようこそ



博物館へ行こう

大規模改修工事を終え、リニューアルオープンをしてから半年、初めての夏を迎えました。博物館行事は、これまで同様におおせいの参加者で盛況です。すべての行事が順調にすべりだしています。館内の展示も工事完了と40周年式典にあわせて大巾に見直しました。

さらにロビーや中庭などのコーナーも充実させてきて、動きのある楽しい空間になってきました。友だちや家族で見学に来てください。もちろん、ひとりでもゆっくりの見学も歓迎します。

夏の特別展『豊川の流域から見た鳳来の自然』 (平成16年7月18日～8月31日)

鳳来町を流れる豊川と、その支流の自然を紹介した特別展です。地学、植物、動物のコーナーに分かれて、流域に沿った特徴的な自然を、写真や実物標本でわかりやすく展示しています。好評の「鳳来の自然・観察ガイドブック」を基に構成しており、本と同時に販売しています。



ロビーの生きものたち

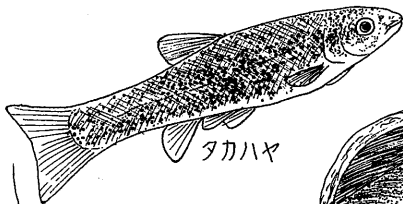
玄関を入ったところがロビーです。受付で博物館職員の次に会うのが、これらの生きものたちです。

みんな、水槽の中に入れて、自分流の生活をしているため、あいさつはしてくれませんが、それなりにあいさようかあって、かわいい連中です。いなくなる前に、会いに来てください。

夏休みが終わると自然界に帰るのがいます。



モリアオガエル



タカハヤ



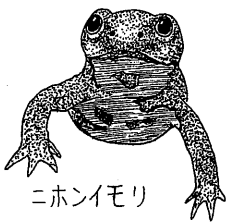
ナマス



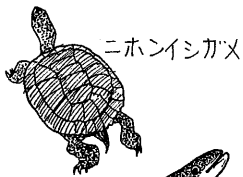
ヒバカリ



オケマイマイ



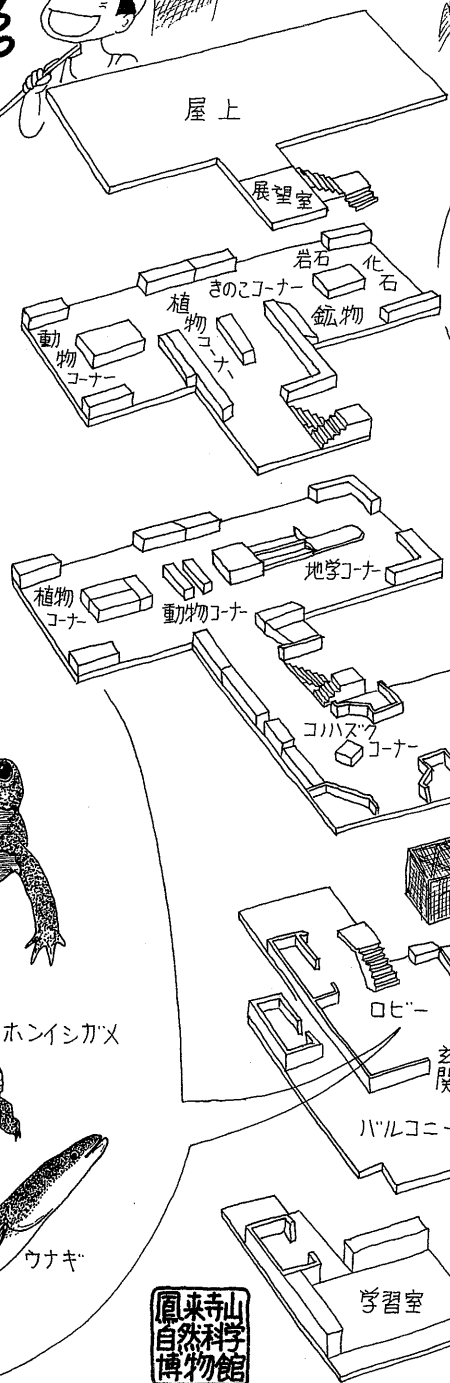
ニホンイモリ



ニホンイシガメ



ウナギ



中庭の生きものたち

本館と展示館の間に小さな中庭があります。ここは鉢植えの植物や動物保護用のケージがあります(旧コリハウス)。

現在、この保護室には、オオコリハズクに次いでトナリハズクがやってきました。今年の2月5日に豊橋市内で左翼を骨折しているところを保護されました。

治療のかわりに左翼は切断しなければならなくなり、6月17日に博物館へやってきました。並派な羽角と、まん丸な目、トナリ模様の特徴です。冬鳥で、豊橋のような平野部にやってくる鳥です。鳳来寺山付近では、見ることのない鳥です。

二度と空を飛べない体になってしまいましたが、見学者にはよこんでもらっています。

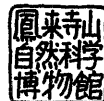


ミュージアムショップ

夏の自由研究で人気の岩石標本(20種)、鉱物・化石類や書籍(館報、紀要、特別刊行物など)を販売しています。また、おみやげ用に



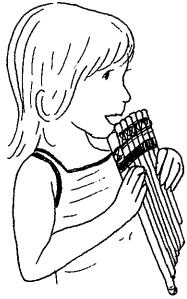
カンパッチやポストカード、エコバッグ、トートバッグが人気です。これらはすべて当館オリジナル品ばかりです。つまり、日本中でここだけでしか手に入らないものなのです。



夏だ 自然講座だ

夏休みの子ども自然講座

○サンポーニア(竹笛)を作ろう
(平成16年7月24日、12名参加)



南米の竹笛サンポーニアを身近にあるメタケで作り、演奏までしようという講座です。あらかじめ音階を整えて切ってもらった竹筒15本を組みあわせて作りました。音は簡単に合せましたが、演奏となるとやはり練習が必要ですよ。



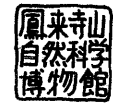
愛知万博へ出展される生物作品製作講座
(平成16年6月12日、35名参加、7月10日、30名参加)

来年3月から開催する愛・地球博の愛知県ハピレオンに展示する、昆虫などの小さな生きものの作品製作講習会を、博物館でおこないました。

自然の素材や身の回りの不要になったものを材料にして、子どもたちが作品を作りました。フラスチックのスプーンや容器、布きれ、竹や木の枝、落ち葉などを使って、ミムシ、チョウ、トンボなど、さまざまな生き物が誕生しました。皆の創造力が光りました。



6月から7月にかけて、たくさん学校の利用がありました。必要に応じて館長または学芸員が現地に出かけて観察会などの講師としています。8月も忙しくなりそうです。



はぴかたよ 16.94
2004.7

学校の博物館利用と出前講座

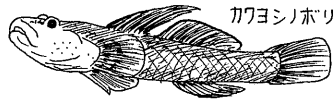
- 6月9日 東陽小学校6年生(見学と野外学習)
- 10日 鳳来寺小2年生(見学)
- 11日 鳳来寺中部小(見学)
- 14日 鳳来寺高校2年生(見学と講話)
- 16日 東栄町立中部小6年生(見学と野外学習)
- 18日 小坂井町立東小5年生(野外観察・県民の森)
- 19日 鳳来西小全校生(万博作品講習・学校)
- 22日 西尾市立中畑小(見学)
- 24日 黄柳野高校(見学と講話)
- 25日 一宮町立東部小5年生(野外観察・県民の森)
- 7月7日 作手村立菅守小4~6年生(きのこ観察・学校)
- 12日 鳳来西小3年生(見学)
- 12日 山吉田小3年生(万博作品講習・学校)
- 25日 東海市立平洲小5年生(見学と野外観察)
- 27日 三好町桃山幼稚園(見学)
- 29日 東海市立緑陽小5年生(見学)
- 30日 東海市立渡内小5年生(見学と野外観察)

○川の魚を調べよう
(平成16年7月31日、16名参加)

博物館前の音為川でおこないました。雨の中、あいまをぬって、タモで採集しました。

観察できたのは、カワヨシボリ、カワムツ、タカハヤのほかにはサワガニ水生昆虫も採集しました。

午後は魚を小さな水槽に移して、じっくり観察してスケッチしました。



先生のための自然と博物館利用講座

○鳳来寺山付近の地形と岩石
(平成16年7月28日、13名参加)

博物館とその周辺の自然をおおいに利用してもらうため、小・中学校の先生を対象にした講座です。

地学、植物、動物の3分野で興味のある講座を受講してもらいます。今年で3年目です。

今回は鳳来寺山の地形と岩石について、館の展示と現地の実地のようすを確かめてもらいました。

夏休み期間中に、植物と動物の講座がまだ2回あります。



博物館はこちらです
(平成16年7月16日)

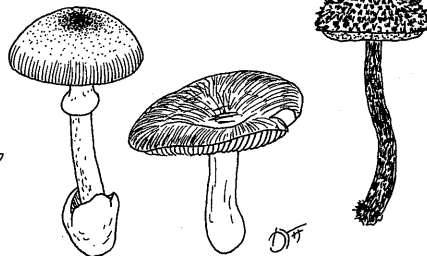
改修前の姿のままだった博物館案内看板5基を修繕しました。サビのついた支柱は塗装をしておし、館の写真も新しいものにしました。

博物館の場所がわかりにくかったと、来館者に指摘されることがありましたが、道しるべとして、以前より目立って案内してくれるものと思います。

梅雨期のきのこ観察会(平成16年6月26日、くもり、53名参加)

博物館友の会主催の恒例の観察会です。今年は6月6日の入梅から、比較的よく降ったので、きのこの発生は例年より多かったようです。

アカハテクダケやコテンクダケモドキといったテンクダケ科のきのこや、ヘニクダケ科、イグサ科のきのこを中心に64種のきのこを観察できました。



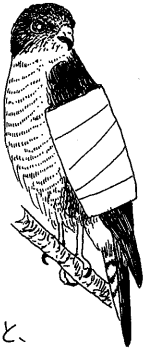
罪なツミ(平成16年7月6日)

椎平の広瀬弘市さんがかわいがり、見守ってきたツバメがいよいよ巣立とうという時、何者かがそのうちの1羽におそいかかりました。

しかし、家の中だったので、ツバメをつかんだまま、ガラスに激突。気絶して落下、ツバメは死んでしまいました。

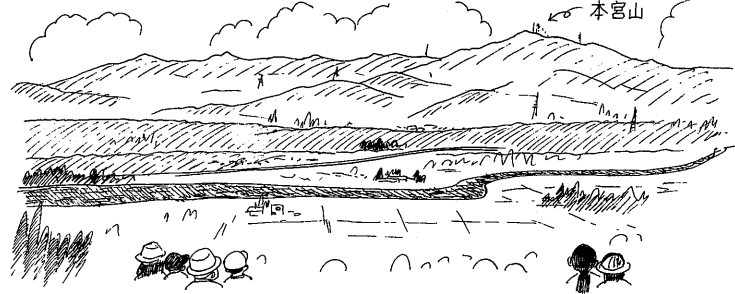
連絡を受けてかけつけると、正体はツミ(♂)でした。意識はもとりましたが、どうやら左翼を骨折してしまったようです。

博物館で引きとり、折れた翼を固定して治療することにしました。ツバメは気の毒でしたが、ツミも生きるためです。ツミはありません。



夏の終わりと博物館

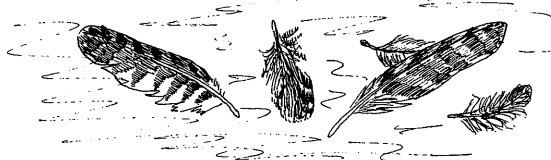
学習会「石巻山の石灰岩と川をつくる地形の観察」
(平成16年8月1日 雨のち曇り 49名参加)



鳳来町役場を出発したバスは、まず井沢橋に停まり、豊川と宇連川の合流地点から、上流の地形を観察しました。長篠城跡は豊川がつくった河岸段丘の上にあり、2つの川の段丘崖が、武田軍から城を守ったことがよくわかります。次に一宮町の吉祥山の麓の丘から地形を見ました。高位、中位、低位段丘のようすが目の前にひろがり、川のはたらきと大地のなりたちが実感できました。河原の石や石灰岩の洞穴(蛇穴)も観察し、夏の有意義な学習会になりました。

オオコハズク換羽中 (平成16年8月9日)

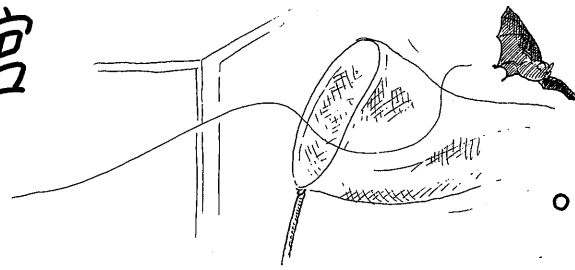
保護中の片目のオオコハズクが日に日に、みずほらしくなっていきます。ケージの下にはぬけ落ちた羽が散乱し、立派だった羽角もボサボサです。病気かな...と心配しましたが、やがて元どおりになってきました。どうやら換羽の時期だったようです。



ゲッ! ヤマカガシの赤ちゃんがいっぱい(平成16年9月17日)



この日、玄関でヤマカガシの幼蛇を発見。見失っているスキに今度は事務室内へ侵入。外へ追い出しましたが、翌日からは何匹も入り込んできて再びゲッ! この時期は卵が孵化する頃で、ヤマカガシは6~43個の多産です。へびの館になったらどうしよう〜



超音波レーザー搭載小形飛行物体 (平成16年8月25日、朝)

ロビーに黒い紙きれのようなものが舞い込んで来ました。中でグルグルと飛びまわっています。捕まえて室外へ逃がしてやろうと、捕虫網を振るのですが、網の直前でスルッとかわされます。ガラスに激突! かと思うとサッと方向転換し、決してぶつかりません。みごとな衝突回避能力に感心しながら追いかけているうちに、ようやく捕獲できました。正体はキウカシラコウモリでした。

学習会「森や谷川の生きものをさぐる」 (平成16年8月7日~8日 泊り 曇り-時雨 24名参加)

合宿で行なう学習会です。一日目は館の前を流れる音為川で、水生昆虫と魚類の観察。夜はライトトラップで燈火に集まる虫の観察をしました。夕方から降りだした雨で、参道のナイトウォッチングは中止となってしまい、楽しみにしていたムササビとの出会いも、ヨトカやアオバズクの声も聞けず、残念でした。

翌朝は5時起床でハードウォッチング。いっとは朝寝ぼけの子どもたちもパッチリお目さめ。サシバやオオルリなど、16種の野鳥と出会うことができました。



夏休みの後半からは東海市立太田小、船島小、明倫小、ミッ池小学校のそれぞれ5年生、鳳来町では山吉田小学校の6年生が来館してくれました。地層の観察や化石採集など、館内外を大いに使ってくれました。

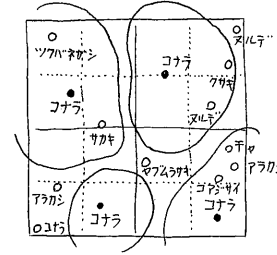
ほろかわだより 16.95 2004.9

先生のための自然と博物館利用講座(後編)

○「鳳来寺の森で植物群落を測る」
(平成16年8月2日 8名参加)

中西正先生が講師でした。

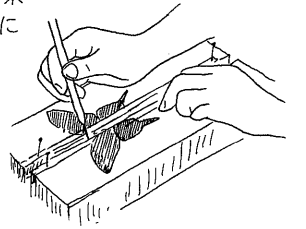
午前は講義、午後は実際に森に入って、調査方法について実習しました。植生調査表に樹種や樹冠投影図を書き込んでいき、被度、群度を測定しました。



○「昆虫の世界」
(平成16年8月25日 8名参加)

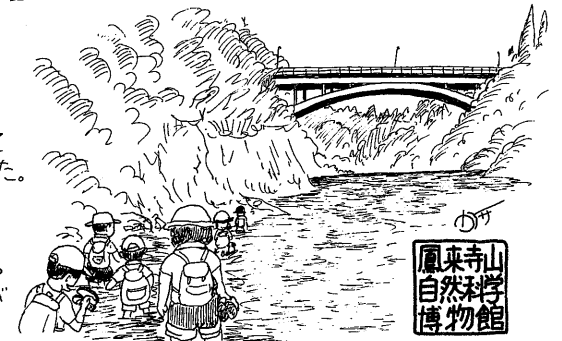
大平仁夫先生の講師で、昆虫の採集方法から標本の作りかまで、実践的に学びました。

また、昆虫の進化や体のしくみ、温暖化による分布の変化など、専門的な講義もありました。



館長とたずねる中央構造線 (平成16年9月4日 ほか 69名参加)

今年は長篠地内の中央構造線をたずねました。長篠大橋下の豊川(豊狭川)の河床を、みざまで水に浸ってサフサフと歩き、足でマイロナイト(圧砕岩)を実感できました。スリルと冒険心をいっただく、忘れられない観察会でした。



きのこシーズン

きのこ展



きのこ展と博物館協力隊
(平成16年9月26日～11月28日)

昨年は大規模改修工事で臨時休館でしたので、2年ぶりのきのこ展となりました。準備期間があまりなかったため、パネルは過去に製作したのを使用しました。しかし、きのこはそんなわけにはいきません。当館の「きのこ展」の最大の特徴は、実物を生のままで展示することです。そこで、博物館協力隊が出動してくれました。深見夫妻、丸山さん、牧平さんは標本の採集や展示の他に会場の一角に雑木林のジオラマを作ってくれました。又、珍しいきのこグッズは友の会の山崎さん、豊田市の木村さんが出展してくれました。今年はいきのこの発生も多く、楽しくにぎやかな展示会になりました。



学習会「きのこを調べる会」

(平成16年10月10日 曇り-時雨 88人参加)

博物館の学習会の中でも、競争率の高い、毎年好評の観察会です。鳳来寺山周辺の2ヶ所の山に入り、きのこの観察と採集をしました。午後は、きのこ展の会場に採集したきのこを持ち寄り、山田弘先生による同定と解説があります。

今回はスッポンタケやフロラッパタケ、ヒロードツエタケ、マメサマタケなど、106種が観察できました。実物で学ぶきのこは、幼菌、老菌、生育環境で同一種と思えないものもあり、とてもためになります。



きのこ講座 (10月～11月)

秋を迎えると、にわか
にきのこの観察会や講座
が増えてきます。
毎週のように各地でおこなわれ、
てんてこまいでした。

- 10月2日 昭和高校教員のきのこ研修
- 10月3日 作手村自然探訪「きのこ教室」
- 10月11日 西地区グリーンツーリズム「きのこ狩りと田舎おもしろ体験」
- 10月12日 東三河地区高等学校生物教育研究会「きのこ講座」
- 10月16日 東浦町「子どもきのこ採集教室」
- “ 県民の森「森の集い」
- 10月17日 武豊町中央公民館講座「きのこ観察会ときのこ展見学」
- 10月21日 黄柳野小学校きのこ観察会
- 10月23日 鳳来西小学校開放「山の幸、里の幸を味わおう」
- 10月30日 うたと文化講座「キノコ」
- 11月11日 鳳来中学校選択理科「野生きのこ」
- 11月13日 豊橋市「親子ふれあい教室in吉祥山」
- 11月18日 鳳来中学校選択理科「きのこ観察」



はっぱがたのり 16.96
2004.11

巨大きのこ発生 (平成16年9月24日)

館長が阿寺地内で、カサの径が60cmほどあるオオシメジを採集しました。過去にも発生したことのある場所ですが、これほどのサイズはなかなかお目にかかれません。さっそく「きのこ展」に展示しました。マイタケに似ていますが、残念ながら食用には向かないきのこで、残念でした。

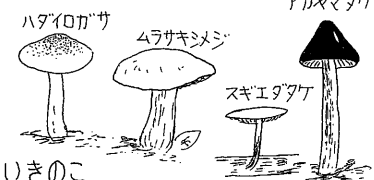


きのこの研修 (平成16年11月28-29日)

菌学教育研究会による第1回の「菌類の多様性と分類」講座が9日間にわたり筑波山麓で行われました。今回は、菌類概論I、IIと顕微鏡の使い方の実習を受講しました。

鳳来中学校裏山きのこ探検 (平成16年11月8日)

理科授業の一つとして学校の裏山のきのこ観察をしました。11月も中旬、しかも杉林であまり期待せずに出掛けましたが、きのこ目に慣れた学生たちは、いっせいで見つけてくれました。アカヤマタケ、スキエダタケ、ムラサキシメジ、ハタイロカサなど13種が発生していました。



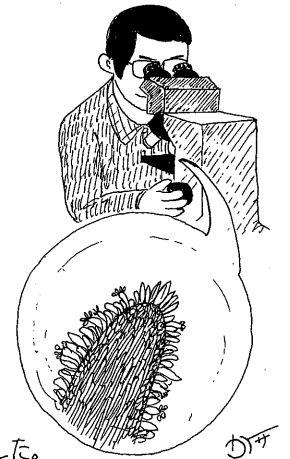
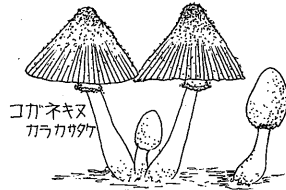
お初にお目にかかります (平成16年10月29日)

展示用のきのこの採集に玖老軸に出かけました。10月も終わりで、さすがにきのこは少なくなっていました。先週に出ていたコウタケもシメジも見あたりません。アブラシメジやメリササタケは半分腐っていました。とほとほと雑木林とスキ林の境界を歩いていると、ワインレッドのヒメサクラシメジの群生に出会いました。これが初顔合せでした。



長篠は熱帯地方? (平成16年9月9日)

長篠にある、ふれあいパーク(ほうらい)の入口付近の土手で、黄金色のかわいいきのこを館職員が見つめました。このきのこは熱帯性で、以前、豊橋の二川で庭に生えているところを見たことがあります。今年の猛暑で、鳳来町でも発生するようになったのでしょうか。この土手には、その後もさまざまなきのこ顔を出しました。



博物館の近況

幻の第52回 全国博物館大会
(平成16年11月18~19日)



はがっぴだもり No.97
2004.12



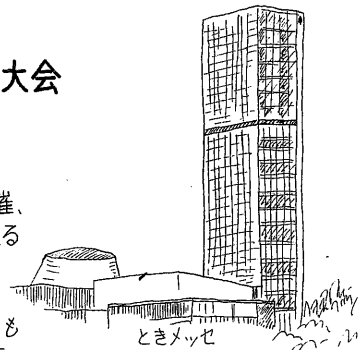
学習会「乳岩の紅葉を楽しむ」 (平成16年11月14日 ひとり 52名参加)

乳岩をめぐるコースと、宇連ダムまで歩く健脚コースに分かれて、紅葉の乳岩の植物を楽しみながら観察しました。乳岩から鳳来湖までのホソバシクナゲが群生する尾根道では、目の前に鳳来寺山、棚山、宇連山の山波がみまがり、雄大な景色も楽しめました。

「市民とともに創る博物館」をテーマに全国博物館大会(日本博物館協会主催、文科省補助事業)が、新潟市で開催されることになりました。

1日目のシンポジウムに続く、2日目のパネルディスカッションには、鳳来寺山自然科学博物館もパネリストとして、学芸員の講師要請がありました。

友の会・ボランティアの取り組みについて、小規模館としての活動状況が目にとまったようです。光景なことであり、お引受けすることになりました。ところが、10月23日に発生した新潟県中越地震により、中止せざるを得なくなりました。県内の博物館にも大きな被害が出たようです。被災されたみなさんによりお見舞い申し上げます。

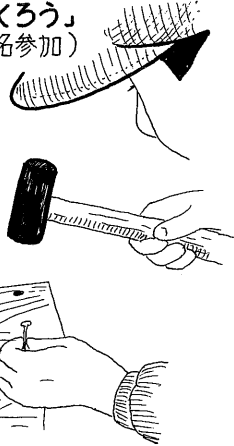


学習会「冬の野鳥を観察し、巣箱をつくろう」 (平成16年12月5日 ひとり-時雨 42名参加)

午前は双眼鏡を持ってバードウォッチング。

今回は野鳥がなかなか姿を見せてくれず、12種だけでした。一部の人にはコバトブルーのカワセミを見ることができました。

午後は巣箱づくりです。毎年参加している子どもは、ノコギリもカナヅチの使い方も堂に入ってきました。こうした体験は自身の財産になります。



博物館指導者研究協議会 (平成16年12月16~17日)

自然史・理工・動水部門の研究協議会が茨城県の大洗水族館と水戸市で開催されました。中止となってしまった全国博物館大会のテーマを受けて、

「市民とともに創る博物館」について分野別におこなわれる研究協議です。

これには当館学芸員がパネリストのひとりとして出席しました。そして、鳳来寺山自然科学博物館の友の会、協力隊の運営や内容、博物館活動などについて事例発表と討議を行いました。山あいの小さな町立博物館が、子どもから大人まで700人ほどの友の会をどう、ボランティア組織を立ちあげていることにおどろかれました。これを機に、いっそう努力して全国に誇れる「みんなの博物館」にしていきたいです。



開館41周年感謝祭 (平成16年11月23日)

鳳来寺山とみじ祭りにあわせて友の会と協同して開催している行事です。

館のバルコニーを使って、会員の店やミュージアムショップも外に店をひろげて祭りを盛りあげました。友の会の水谷さんのストロー細工の恐竜やエビは、子どもに大人気。

また、嵐さんの化石、丸山さんのポストカードと竹炭、山崎さんのキノコグッズ、深見さん高橋さんのリース、長谷川さん野口さんの岩石、鉱物もにぎわいました。

博物館の鉱物さがしコーナーも行列ができていました。

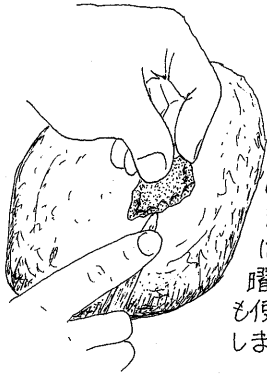
入館者と同例年の倍くらい人が見学に来てくれ、大忙しでした。

これは、駐車場で一日中、参道を歩く人に声をかけて、来館に導いてくれた友の会会長の小原さんの陰の功績のおかげです。みなさん、おつかれさまでした。そして、ありがとうございました。

子ども自然講座「石器を作ろう」 (平成16年11月27日 12名参加)

これが第3回目です。今回は館長が講師をつとめました。

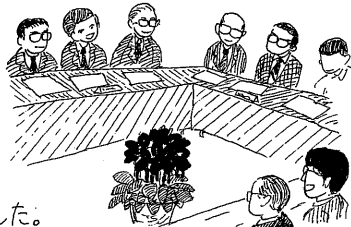
まずはじめに地元で手にはいる石器の材料(安山岩)を採りに出かけました。館にもとってからは、松脂岩、下呂石、黒曜石など、本場の石材も使って石器作りに挑戦しました。



学術委員全体会 (平成16年12月19日)

この時期に行なわれる学術委員全員による協議会です。この会で次年度の特別展や学習会、出版内容などの学術関係の事業が決まります。

博物館活動の最も重要な部分であり、真剣な協議の末、主な行事が決まりました。



博物館等職員研修会 (平成16年11月4~5日)

愛知県博物館協会の研修会で、岡崎市で開催されました。テーマは「資料保存と環境整備 2004年末臭化メチル全廃にむけて」でした。当館にも大いに影響し、関係する内容だったので受講しました。

収蔵標本を虫やネズミ、カビなどから守るために、どのような対策が必要か、重要な内容の有意義な研修でした。



博物館内部改修工事



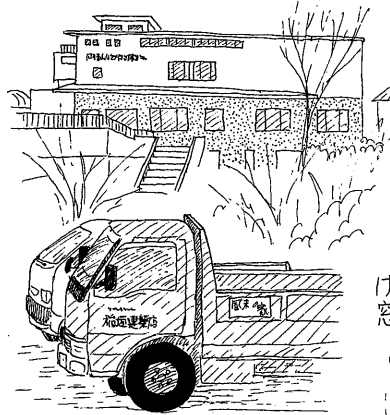
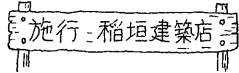
内部改修工事始まる

(平成16年12月14日～平成17年2月11日)

昨年の大規模改修工事につづく工事です。前回は
耐震補強と、外部を中心とした工事でした。

今回は改修の手が入られなかった内部の、特に展示
館の床、壁、壁面展示ケースの改修と、植物標本庫
の空調設備の設置が主な工事です。

この工事を終えれば、建物としての外側と内側が
ほぼ改修できたこととなります。40年間に蓄積された
傷みもきれいに直されます。



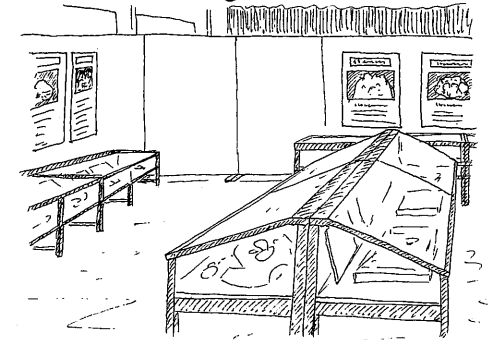
工事中はご迷惑をおかけします

工事は開館しながらおこないます。
階ごとに作業をするので、工事がおこなわれて
いる階の見学はできません。

この寒い時期に、わざわざ来館してくれた
お客様に申し訳ない思いです。そこで女子職員の
発案で、粗品を作り、進呈することにしました。

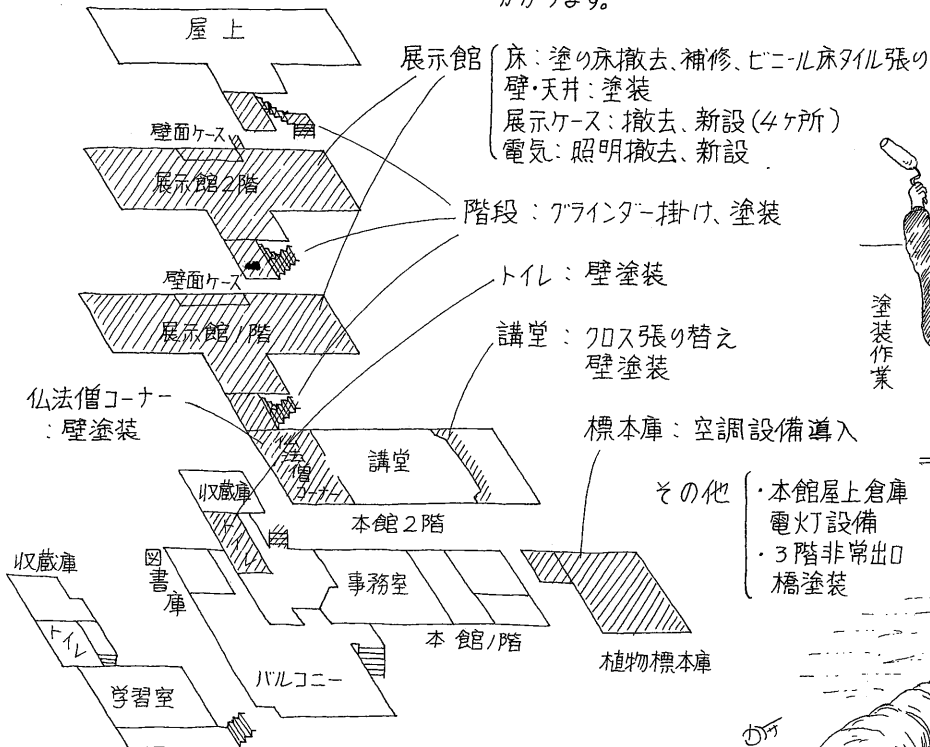
中味は招待券や小物、キャンディー、ポストカード
などですが、けっこう喜ばれています。ご迷惑をおか
ける、おわびの気持ちとして、見学にいらした方全員に
窓口でお渡ししています。

はぴなだより 16.98
2005.1



工事の内容

具体的な工事箇所と内容は、図のとおりです。70アの展示物を移動させ、よけてから
作業をする必要があるため、とても手間が
かかります。



緊急臨時展示 (平成16年12月26日)

工事のため、見学できない部屋ができてしまいます。来館者に
ご迷惑にならないよう「きのこ展」の終わった講堂で、臨時の展示を
することにしました。年もおしこめたこの日、工事で片付けな
ければならなくなった「奥三河のきらめく鉱物」たちを講堂に移動。
過去の特別展で作ったパネルをひっぱり出して形を整えました。
空ケースもできてしまったので、そこには季節はずれですが、キノ
グッズも並べてにぎめました。まるでお正月のお雑煮、みた
いな展示になってしまいました。おゆるし下さい。

真冬のコナハズク取材 (平成16年12月27日)

土曜日夕方のテレビ番組「遊びに行こっ！」の収録のため、
双子の女優の三倉茉奈・佳奈(まなかな)さん一行が博
物館にやってきました。

コナハズクの取材のためです。
山びこの丘で、自分たちで
作ったススキム法僧を手に
終始笑顔の見学でした。

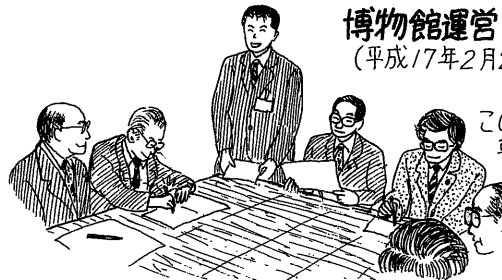
実物のコナハズクが意外
と小さいことにビックリ。鳴き
声も「フッ、ポー、ソー」とは聞
こえなかったみたいで、やはり
現代っかなと思いました。

そして保護飼養中のオコ
ナハズクは真近で見ることが
できました。放映は1月29日の
夕方6時30分たそうです。



立春・そして博物館

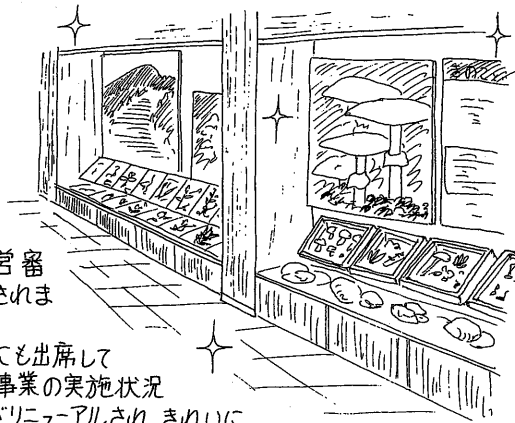
博物館運営審議会 (平成17年2月28日)



この日、博物館で平成16年度の運営審議会が開催されました。

穂積町長にも出席していただき、今年の実施状況

報告と、平成17年度事業計画が審議されました。館の内外がリニューアルされ、きれいに生まれかわった館をいかに活用していくか責任は重大です。展示・教育普及、資料の収集・整理・保存、調査研究のバランスがとれた活動が大事です。鳳来町として、そして新市になっても全国に誇れる、みんなの博物館といってもらえるように、職員一同全力でがんばります。



博物館内部改修工事完了 (平成17年2月10日)

昨年の12月14日から行われていた内部改修工事が完了しました。4年前の塗り床と、その上に塗られていたモルタルがはがれて、とても見苦しかった床や、壁、天井もきれいに塗りかえられ、明るく清潔感のある展示室になりました。照明と古いまま残されていた展示ケース4ヶ所も新しくしてもらい感謝です。さっそく展示作業にとりかかり、手作りですが、展示も一新することができました。

はつかりだより No. 99 2005.2



井波一雄先生逝去 (平成17年1月7日)



井波先生は、当館学術委員として開館当初から指導していただきました。平成13年からは顧問として支えてもらっていました。植物の細密画は絶品で、数千枚を描き残されました。採集標本は10万点を超え、千葉県立中央博物館に収蔵されています。自らを「植物楽者」と名のり、自然を心から愛された先生でした。ご冥福をお祈りいたします。

友の会ホームページ開設準備中

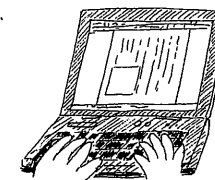
友の会役員会で会計の長谷川さんから、友の会のホームページを作ってはどうか。との提案がありました。最近、急拡大しているブログを利用するものです。学習会や友の会活動、自然の話題、展示情報などをアルバム風に紹介するものです。現在、試運転中で、総会で承認を得てから公開する予定です。



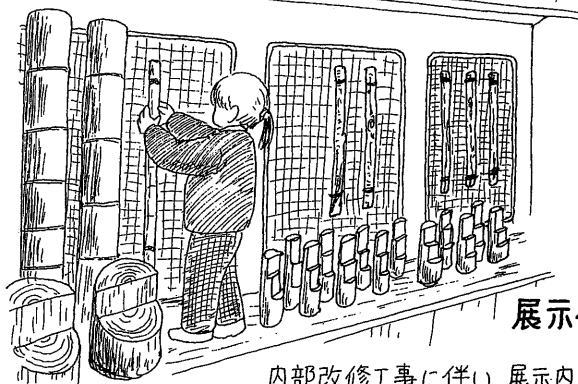
鳳来寺小学校4年生博物館創る (平成17年2月23日)

鳳来寺小学校の4年生のみなさんが招待状を持ってきてくれました。学校の中に自分たちの博物館を創ったのです。館長と訪問すると、玄関で出迎えてくれ、博物館に案内してくれました。かわるかわる展示の説明をして、全員がしっかりとけんめいに取り組んだようすが伝わってきました。総合的な学習で、身近な昆虫について調べたり、観察したことがよくまとめられており、標本と上手につくられています。3月からは当館展望室に展示されます。

館報34号の執筆、編集、発行

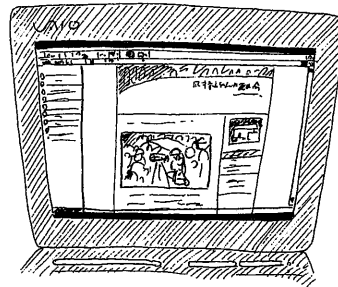


館報の作成は、この時期の大事な仕事です。職員全員が協力して、原稿の入力や編集、割りつけなどの作業を進めます。3月末には製本し、全国の博物館圏に交換資料として送ります。



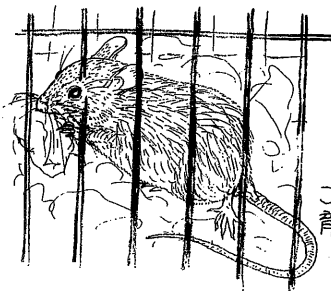
展示復旧作業

内部改修工事に伴い、展示内容の見直しをしながら、復旧作業をおこないました。博物館協力隊(ボランティアグループ)の力を借りて進めました。鳳来寺山の岩石展示ケースは露出展示とし、分類展示室から「きのこ」のコーナーを移設しました。そして分類展示室には、樹木と竹類のコーナーを新設。展示室の雰囲気がかガラッと変わりました。今後も展示改善を進めていきます。



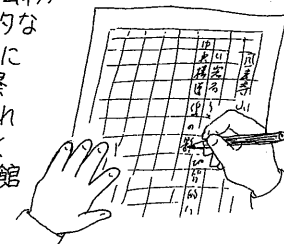
オオコハズク保護 (平成17年2月16、26日)

岡崎市(16日)と豊橋市(26日)から傷ついたオオコハズクが相ついで運び込まれました。眼と翼の骨折によるものです。



クマネズミ飼う(平成17年2月10日)

職員の自宅で毎晩わらわらしていたクマネズミがついに捕まりました。本来ならばこの世にいなくなる運命ですが、館で飼育展示することにしました。幸運なネズミです。



鳳来町誌「鳳来寺山編」

鳳来町として最後となる町誌「鳳来寺山編」の自然分野に、館長と学芸員が執筆を担当しました。この春に刊行されます。手元に置きたい一冊になると思います。

17年春 ようやく100号!

昭和63年4月(1988)から始めた「はくぶつかんだより」が、やっと100回目になりました



奥三河の自然博物展 (平成17年3月25日~9月25日)



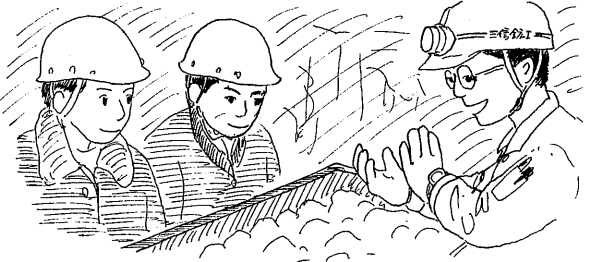
愛・地球博(愛知万博)の期間にあわせての開催です。愛知を代表する自然を有する奥三河を、この機会に紹介しようとするものです。春から初夏までは鉱物と化石の展示です。
友の会員の加藤陽司さん提供のみことな奥三河の鉱物コレクションは、宝石級で見てたえがあります。
今後、コリハズクと夏休み期間中に奥三河の天然記念物を紹介する展示も追加していく予定です。

野外学習会「板敷川沿いの春の花」 (平成17年4月24日 晴 74名参加)



ニオイデツボスミレ

花と新緑の板敷川(宇連川)で奥池しました。榎原駅から湯谷園地までのコースです。
ヤマザクラやアオダモ、クサイチゴやスミレ、アケビなどの花が咲き、アケビの新芽がよく目立ちました。イワガラミは葉をもむとキュウリのおいしかったです。



愛知県博物館協会自然部門研修 (平成17年3月9~10日 晴 6名参加)

当館が担当し、横山館長の講師で行ないました。今回は奥三河の鉱物産地を訪れて、観察と採集の実習でした。新城の中宇利鉱山、津具の津具鉱山と見山の砂金採集、栗代鉱山の坑内見学と鉱物採集をしました。
くじく石、中宇利石、黄鉄鉱、硫砒鉄鉱、金などが採集でき、三信工鉱の配慮で坑内の案内をしていただきました。
少人数でしたが充実した研修になりました。

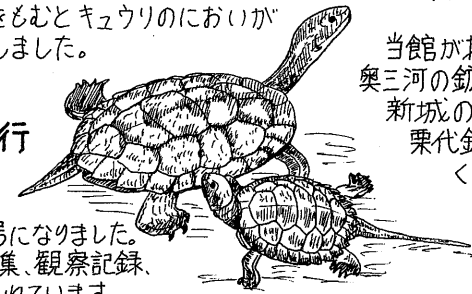
学術委員総会 (平成17年4月7日)



植物部門主任として40年以上館を支援して下さった高木典雄先生(名古屋大学名誉教授)が顧問となり、新たに成田務先生と水谷英夫先生が学術委員に加わりました。牧野彦二先生も顧問になりました。
この総会には、町長、教育長も出席され、事業報告、新年度の事業推進について真剣に話しあいました。

るりこん 瑠璃山 No.10の発行 (平成17年4月7日)

友の会の会報が10号になりました。会員の自由研究や採集、観察記録、随筆などが掲載されています。今号は109頁(B5判)です。会員のスケッチの会での作品が表紙や内部に使われています。



大・小カメ太デビュー (平成17年4月22日)

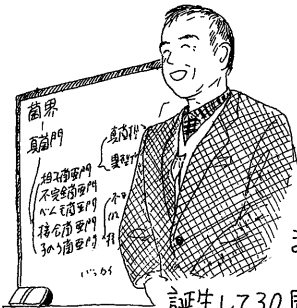
昨年より飼育していたイシガメの大カメ太と小カメ太が越冬水槽から、大水槽に移されました。バルコニーのドーム下に設置した180cm水槽が新住居です。見学者になかなかの人気です。

コリハズク巣箱調査 (平成17年3月13日)

今年こそは何らかの証拠をつかみたいと願って調査に出かけました。協力隊の山本、長谷川、深見さんと学芸員の4人です。残念ながらコリハズクが使ったと思われる痕跡は、今回ありませんでしたが、カラ類やリスが巣箱を使っていたり、モモンガの糞もありました。おどろいたのは、ヤマドリ足が巣箱に入っていたことです。何者が運びこんだのでしょうか。



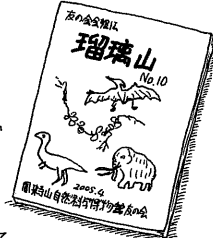
友の会総会 (平成17年4月7日)



総会に先立って、学術委員でこの先生としておなじみの山田弘先生に「きのこの話」の講演をしていただきました。きのこの分類から様々なきのこの特徴まで、スライドをまじえてお話がありました。総会では、今年が友の会が誕生して30周年ということで、さまざまな記念企画を提案し、承認されました。また、試運転中であった友の会HP(ホームページ)も承認され、公開となりました。友の会HPアドレス⇒ <http://houraitomo.exblog.jp> みてね!

館報34号発行 (平成17年3月30日)

セミドリガの幼虫の形態、町内の小学生が見つけた県内2例目のツシマトリリアンダマシの話、天然記念物級の鳳来町の自然紹介、開館40周年式典の記録、平成14・15年度事業報告などを収録しています。全国の博物館に交換資料としてとけています。定価1000円で販売もしています。



短い命 (平成17年4月23日)

春は野生動物たちの誕生の季節です。でも不幸にして生後間もなく死んでしまうものもいます。設楽町清崎の国道で保護されたモモンガの赤ちゃん、あやうく車にひかれるところを助けられたのですが、それまでに衰弱していたのが、館へ到着する前に死亡してしまいました。



はくぶつかんだより No.100 2005.4